慶應義塾大学ビジネス・スクール

ソーシャル・コミュニケーション
―サントリーとキリン―

プロデューサーMr.サントリー

1989年6月4日、ブロードウェイ・ランフォンテン劇場、ミュージカル「ハロー・ドーリー」のキャロル・チャニングとジュリー・ハーマンのコンビがアメリカ最高の演劇賞であるトニー賞の最優秀ミュージカル賞を壇上で発表した。「ザ・ウィナー・イズ・・・ジェローム・ロビンス・ブロードウェイ」、大きな拍手とともにこのミュージカルのプロデューサーたちが壇上にあがって賞を受け祝福の拍手を受けた。そして、この作品の3人のプロデューサーのなかにサントリー株式会社の佐治敬三社長（当時）が交ざっていた。これらプロデューサーのまとめ役のエマニュエル・エイゼンバーグ氏が謝辞のなかで突然日本語で「アリガトウ・サントリーグループ」と叫んだ。思えば、1980年7月にボブ・フォッシーのダンス・ミュージカル「ダンシン」の日本公演の企画プロジェクトが発足してから9年目の快挙である。

キリンビール社会環境部

1991年7月、キリンビール株式会社は、本格化する環境問題に対応すべく「社会環境部」を設立した。もともと我が国のビール業界のトップであるキリンビールの環境保全への取り組みは早く、すでに同社では1966年には排水処理設備を導入している。以来、1974年には各事業単位で「環境設備室」を設置している。また、1992年にはキリンビールの環境保全活動の指針となる「環境ガイドライン」を制定している。これは、3つのR（Reduce、Reuse、Recycle）と2つのA（Assessment、Audit）からなるものであり、このガイドラインを基本として同社では全社的なレベルで環境保全への取り組みを推進している。この具体的な活動例としては、軽量瓶の開発や産業廃棄物の再資源化率の向上、1991年に始まった工場ぐるみの空き缶回収運動「カンバック大作戦」、1993年から1994年にかけての「ビールびんのリサイクル広告キャンペーン」などがあげられる。

このケースは、慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授和田充夫が、同校M16期生斉藤和宏およびD4期生川又啓子の協力をえて教材として作成したものであり、特定の経営状況の巧拙を論じるものではない。